

私たちの町の遺跡 祈りの山 独鈷山 どっこさん

■「祈りの山 独鈷山(どっこさん)」

池辺寺の縁起によると、空海が唐(中国)から投げた独鈷杵が届いた山なので「独鈷山」といいます。独鈷杵は煩惱や仏敵を打ち砕く武器で、池辺寺には鎌倉時代のものが宝物として残されています。中世以降の池辺寺は妙観山の南裾に所在しながら、寺の山号は「独鈷山」でした。池辺寺と対峙する独鈷山北裾は「二王堂」地名が残っており、ここが池辺寺の入口だったようです。池辺寺に所属した山王社や八王子権現社は独鈷山に置かれ、龍が天に昇ったという岩もあります。山裾には池辺寺の末寺や板碑・五輪塔なども多くありました。山頂付近の発掘調査では、大きな岩々を使った古代の祭祀跡が多数見つかり、平安時代初期から「祈りの山」だったことがわかりました。おそらく、天台別院として池辺寺を再興する際に独鈷山を新たな霊山と定め、金峰山修験とのつながりや古来の霊山である妙観山とのつながりを重視して、独鈷山を仰ぎ見る場所に寺を置いたのだと推測しています。明治初頭の池辺寺の廃寺の際、独鈷山にあった山王社を寺跡に遷したのが現在の池上日吉神社です。



← 発掘された祭祀跡

池辺寺に伝わる独鈷杵
(財宝管理委員会蔵)

